

# SIGN

わかりやすいまちづくりに向けて

[熊本駅周辺のサイン計画]



TAXI



# 1 体系的に

## 体系的なサイン計画の必要性

### はじめに

熊本駅周辺地域では、県都の駅前にふさわしい街並み景観を創出するため、公共空間のみでなく建物を含む街並み景観を形成する全ての要素をトータルにデザインしようと検討が進められました。

### 乱立を防ぐ

まちなかには、多様な主体により、目的の異なる多様なサイン類や注意・警告の看板類が設置されます。

また、その設置時期もそれぞれ異なるため、計画的なサイン計画がない場合、後から張り紙やさまざまなサイン・看板類が設置され、サイン類が乱立して景観を損ねているケースが見られます。

このため、熊本駅周辺地域では、多様な主体と協議しながら、体系的なサイン計画を行うことにより、サイン類の乱立防止を図りました。

### 景観を整える重要な要素の一つ

熊本駅周辺地域では、サイン計画は、単にサイン類の乱立を防止するのみでなく、街並み景観をトータルにデザインするための重要な要素の一つとして位置づけられ、検討が進められました。

また、駅前には広告物も多く、必要なサイン類が埋没するため、条例等による屋外広告物の誘導もあわせて検討されました。

### 【体系的なサイン計画がないと…】



▲シェルターの設置後、大きなサインが付けられています。



▲自転車利用者用のサインが、自立型であったり、照明柱に付けられたりして見づらくなっています。

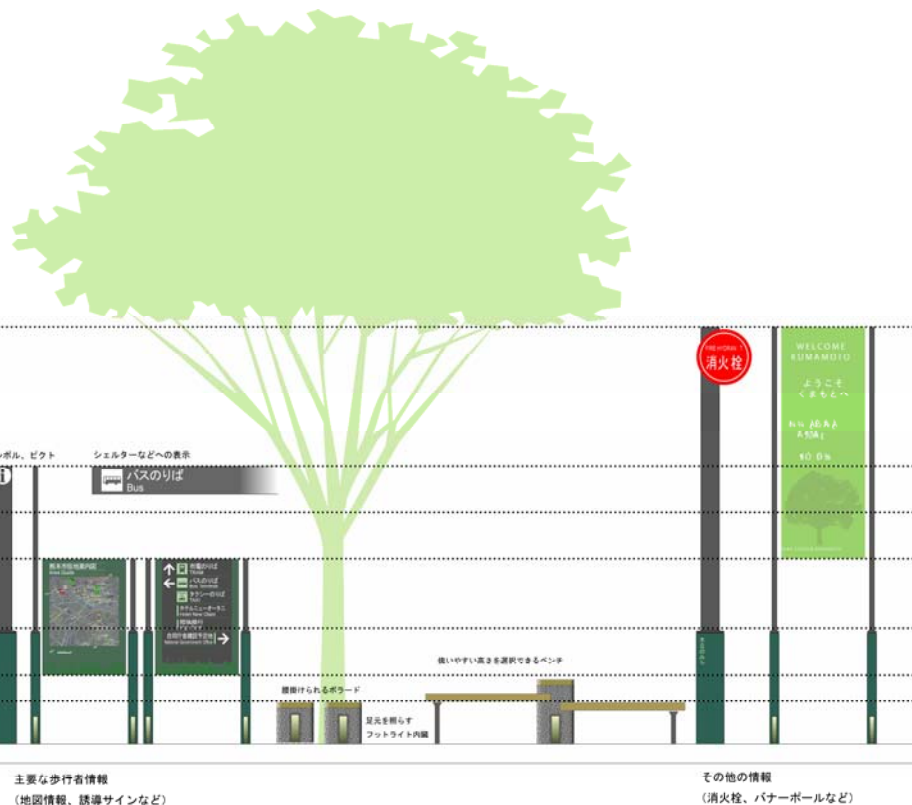


▲公共の掲示板と民間の看板が同じ場所に並んで設置され、見づらく、目立たなくなっています。



▲大切な情報が張り紙で表示されています。

### 【街具（ストリートファニチャー）とサインのトータルデザイン】



# 2 まちづくりとの整合

## 熊本駅周辺地域での取り組み：

### 都市空間のデザイン方針との整合

熊本駅周辺地域では、都市空間づくりの目標（テーマ）を以下のように定めています。  
“駅として使いやすく、公園として居心地が良く、街として暮らしやすい熊本に育まれた文化に根ざした都市空間づくり”

また、駅周辺地域の景観には多様な要素が混在することとなるため、一つひとつの要素には“シンプルさ”が求められました。

熊本駅周辺地域におけるサイン計画は、これらの都市空間のトータルデザインの一環として、全体のまちづくりとの整合を図りながら進められました。

### 5つの取り組み

熊本駅周辺地域では、都市空間づくりの目標や方針に従い、以下の5つの取り組みを行いました。

1. 計画的な配置
2. シンプルなデザイン
3. デザインの統一
4. 駅前から市街地への展開
5. 見やすく分かりやすい表示

### 【サイン計画があると…】



▲景観に調和したサインが、適切な場所に目立つように設置されています。



▲フラワーポットとセットで設置され、まちなか景観のアクセントになっています。



▲バスを降りた人が不安にならないよう、バス停の近くに周辺施設への案内表示が設置されています。



▲信号待ちの人が見やすい適切な位置に、景観を阻害しない大きさのサインが計画的に設置されています。



# 3 種類と配置

## シンプルで分かりやすい配置

### 駅周辺地域におけるサインの種類

熊本駅周辺地域では、以下の3種類のサインを中心に配置計画を行いました。

1. 乗換案内サイン
2. 駅広案内サイン
3. まちなか案内サイン

これらの配置にあたっては、下記の事項に配慮した計画的な配置計画を検討しました。

### 移動パターンに応じたサインの配置

右下図に示すように、直線型の移動パターンか回遊型の移動パターンかに応じて適切なサインシステムを採用する必要があります。

また、下図のように移動のパターンに応じて、「地図」による情報提供が望ましい場合と「誘導サイン」を中心とした情報提供が望ましい場合があります。

### 直線型のサイン配置

目的地がはっきりとした庁舎やオフィスビル、交通手段の乗り換えなどに適します。

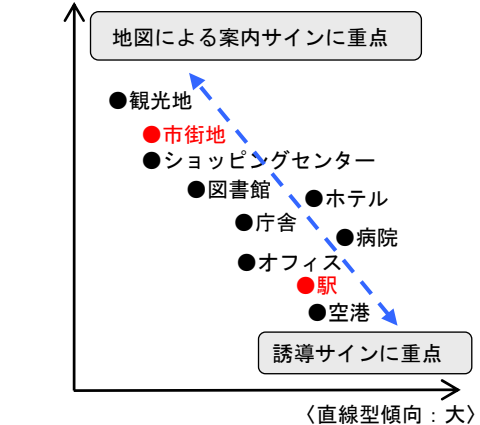
このため、駅前広場に設置する「乗換案内サイン」と「駅広案内サイン」の配置は直線型のサイン配置としました。

### 回遊型のサイン配置

観光地や市街地、ショッピングセンターなどに適します。

このため、市街地に配置される「まちなか案内サイン」の配置は回遊型のサイン配置としました。

■参考：  
〈回遊型傾向：大〉

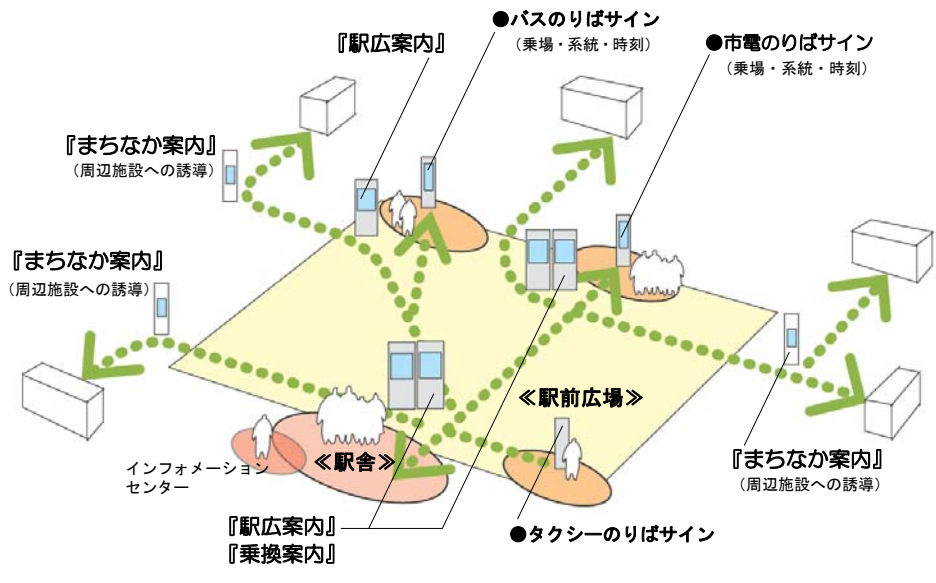


※出展：既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル - 熊本県-

### 熊本駅周辺地域におけるサインの種類の様式図

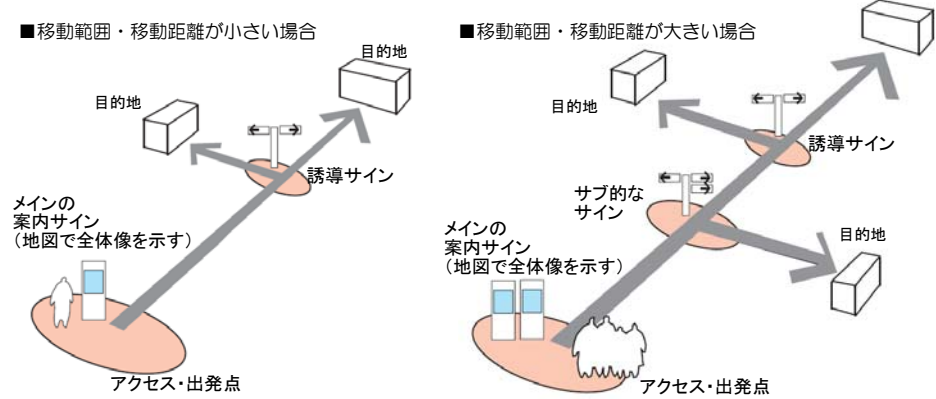
〈サインの種類〉

1. 乗換案内サイン (市電のりば・バスのりば・タクシーのりばサイン)
2. 駅広案内サイン
3. まちなか案内サイン



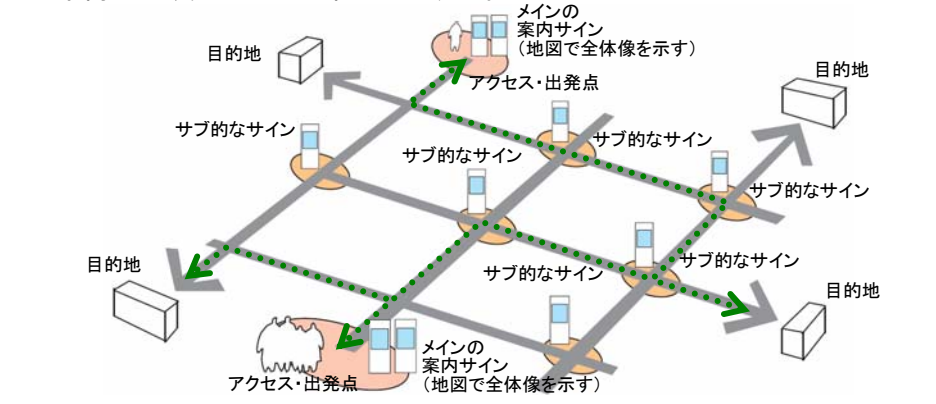
### 直線型移動パターンの場合のサインシステム

※駅や空港などの案内に適する。



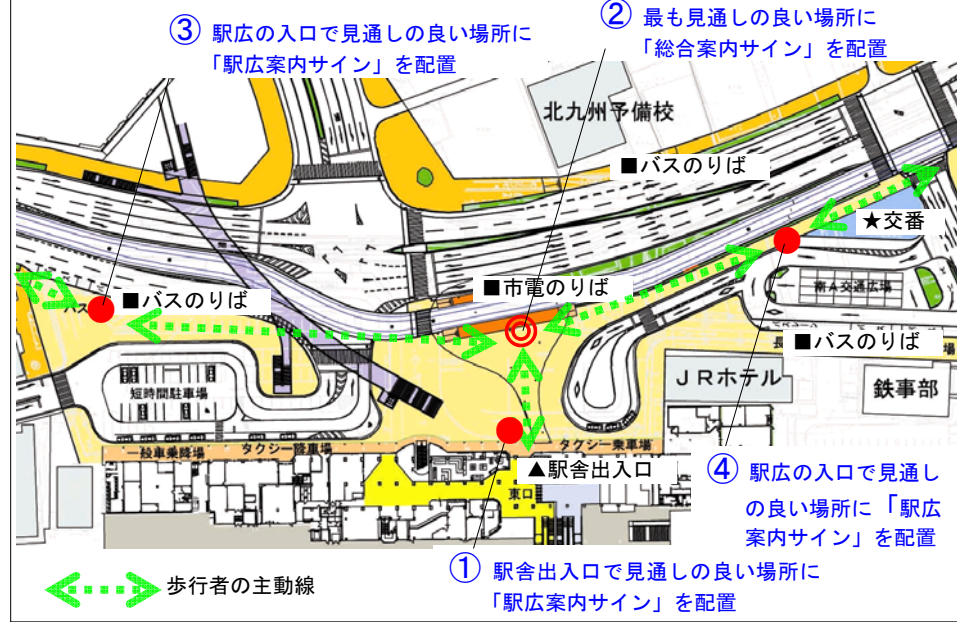
### 回遊型移動パターンの場合のサインシステム

※市街地や観光地などの案内に適する。



### 空間の視認性に着目したサインの配置

- 目的地方向が分かりやすい、見通しの良い場所にサインを配置。
- 駅前広場の屋根や交番など、それ自身がサイン性の高いものはそのまま見せる。



① から電停方向の見え方 (CGによる検証)



○前方方向の見通しは良いが、北側と南側のバスのりばへの見通しがきかないため、バスのりばを中心に、駅広全体の情報を提供しています。

② から北側バスのりば方向の見え方



② から南側交番方向の見え方



○駅広全体と全てのバスのりばが見て確認できる位置であるため、この場所で“総合的な情報”を提供しています。

③ からの電停・駅舎方向の見え方



○北側からアクセスして駅広全体が見通せる場所で駅広全体の情報を提供しています。

④ から電停・駅舎方向の見え方



○南側からアクセスして駅広全体が見通せる場所で駅広全体の情報を提供しています。

### 空間の視認性に着目したサイン配置

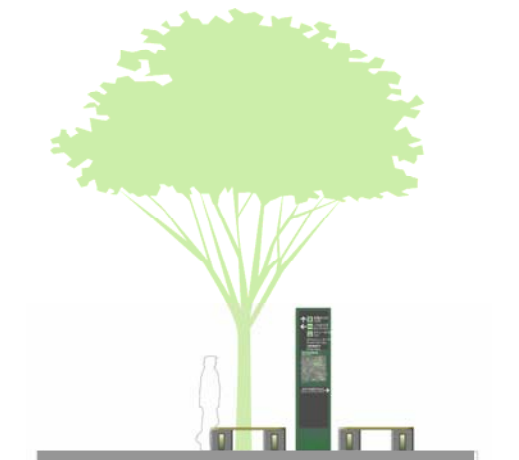
熊本駅白川口(東口)及び新幹線口(西口)の駅前広場のサインの配置にあたっては、スムーズな乗換案内を行うため、以下の3点に留意しました。

1. 最も視認性の高い場所(周辺が見渡せる場所)への“総合案内サイン”の配置
2. 駅舎出口への乗換案内サインの配置
3. 適切な誘導サインと位置表示サインの配置

### まちなかのサブ拠点となる空間づくり

市街地に配置される「まちなか案内サイン」については、サイン板だけが単独で配置されると目立たなくなる可能性があるため、樹木やベンチなどとセットで配置することにより、サインが設置されている空間自体のサイン性を高めるとともに、休憩や情報提供のサブ拠点となるよう検討しました。

■設置箇所のイメージ  
…サブ拠点としての整備



※ベンチ等の街具とセットで設置し、まちなかの休憩スポットにもなる“サインのサブ拠点”として整備。

# シンプルに

## シンプルな形態・素材・表示

### デザインの基本的な方針

駅周辺の景観には多様な要素が混在することが多く、一つひとつの要素には“シンプルさ”が求められることから、サインデザインの方針も“シンプルなデザイン”としました。

また、多様な主体が別々にサインを設置しても「サイン本体のシンプルなかたち」と「シンプルな表示デザイン」となるよう、本体のデザインルールと表示面のデザインルールを設定しました。

### 本体のデザイン方針

サイン本体のデザインについては以下の点に留意しました。

1. 多様な場所になじむプレーンな形態と素材
2. 建築のモジュールにあわせやすい寸法体系
3. 情報を更新しやすい表示面の工夫

### 表示面のデザイン方針

表示面のデザインについては以下の点に留意しました。

1. 共通仕様による書体・ピクト・外国語表記等の統一
2. 地図や文字の表示高さの統一
3. i(アイ)マーク・シンボルカラーの使用
4. 関係機関との協議による表示面の情報とデザインの統一

### 【サインの基本的なデザイン…シンプルな形態・素材・表示】

- 箱型のシンプルな形態
- シンプルな素材:アルミ

○シンプルな表示レイアウト



### 【シンプルなデザインにするための工夫】



○照明の方法:  
LED照明を用い、サイン本体の厚みを約7cmのスリムなデザインとしました。

○表示方法:  
サイン本体の素材の上に直接カットシート(切り文字)を貼るシンプルな表示方法としました。  
これにより表示内容の更新も容易になります。

○本体の素材:  
本体の素材はアルミ板とし、その素材を生かすため、アルマイト処理としました。

### 【まわりの景観と調和するシンプルなデザイン】

OCG(コンピューターグラフィック)により、広場の大屋根や立体横断施設など、周辺景観との調和を検証しました。



### 公共サインはシンプルなデザインで

駅前に限らず、まちなかに設置されるサイン類は出来るだけシンプルでスッキリしたデザインの方がまわりの景観とも調和します。

#### ■シンプルなサインの事例



# 5 そろえる

様々なサインを揃え統一感を

## 東口・西口のサイン

熊本駅白川口(東口)と新幹線口(西口)の駅前広場のサインは、書体やピクトグラムは基本的に「JIS規格(JISZ8210)」や「交通エコロジー・モビリティ財団」の委員会が示した「標準案内図記号」を使用し、その他の細かなデザイン調整を行いながら検討を進めました。

## 市電のりば・バスのりばのサイン

駅前広場の「市電のりばのサイン」と「バスのりばのサイン」は、熊本市交通局及び熊本県バス協会の協力により、駅前広場の他のサイン類と同一デザインで統一されました。

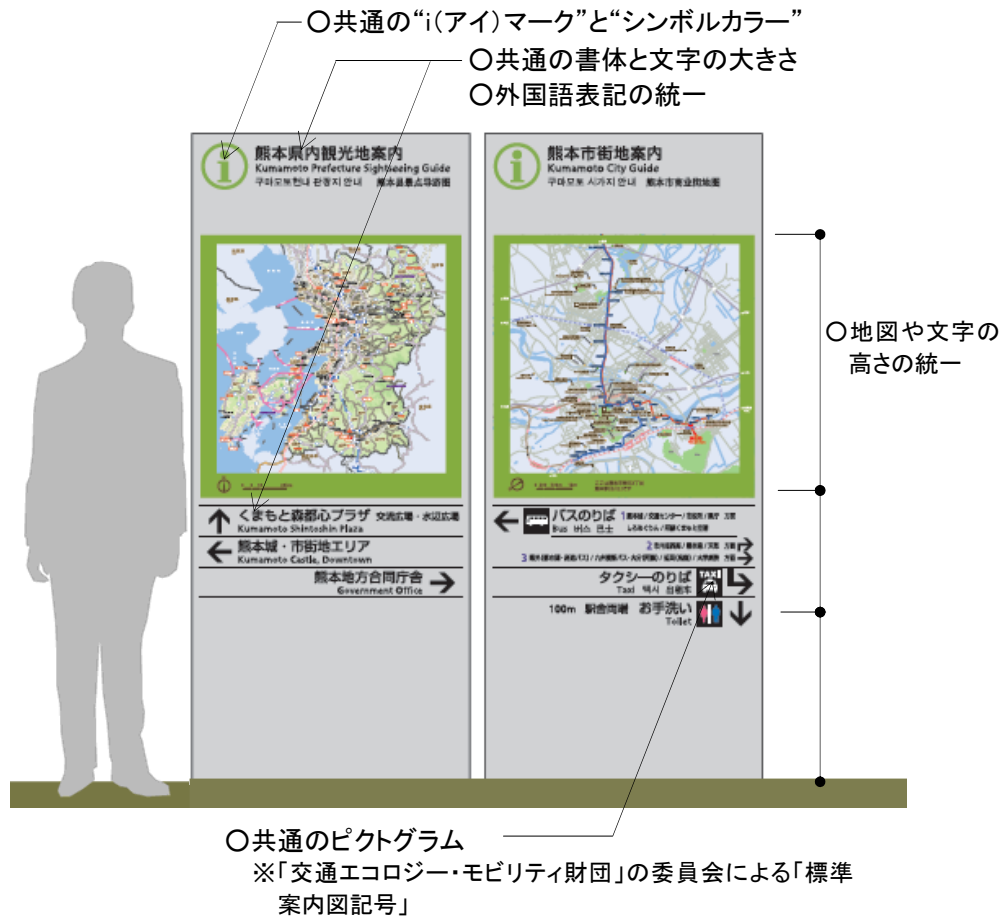
## まちなか案内サイン

駅前広場以外の市街地のまちなどに設置される「まちなか案内サイン」のサインの本体や表示面のデザインも、駅前広場と同様のデザインで統一されました。

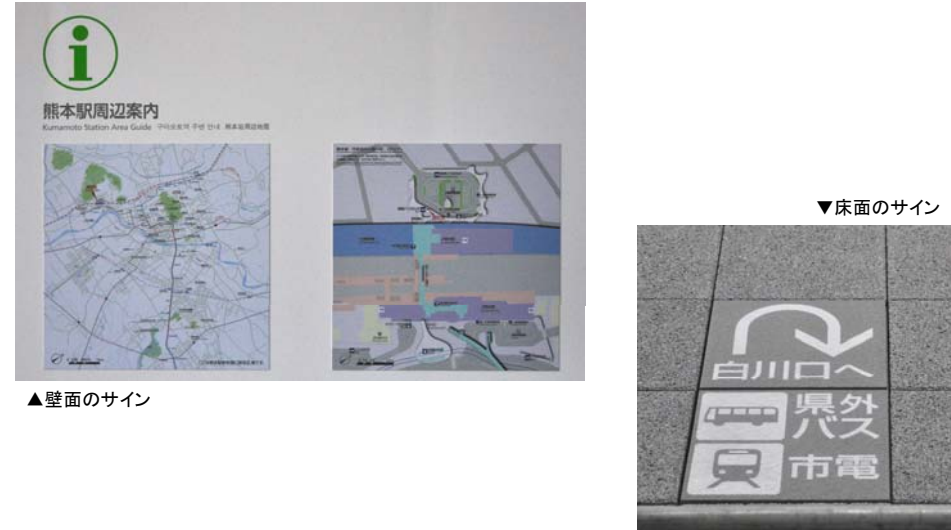
## 交番の周辺案内地図

駅前の交番の壁面には、道を尋ねてくる人のための周辺地図として「まちなか案内サイン」の地図と同じ地図が設置されました。

【基本的なデザイン - 白川口(東口)のサイン - 】



【新幹線口(西口)のサイン】



【市電のりばのサイン】



【バスのりばのサイン】



## ユビキタスサイン

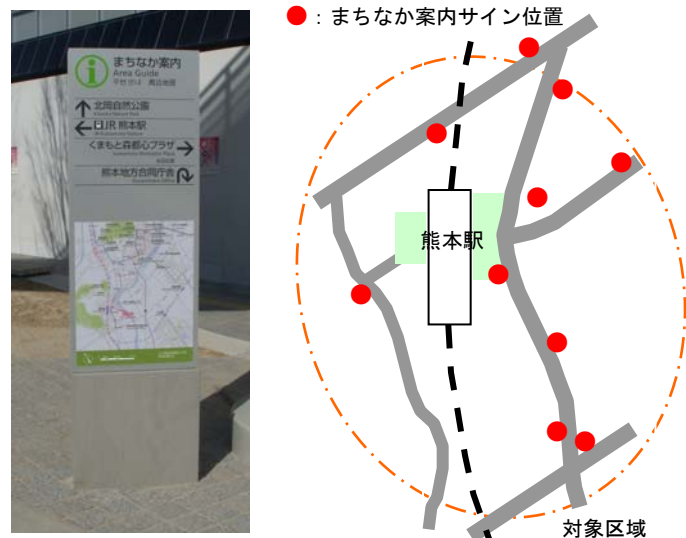
熊本県情報企画課で取り組んでいるユビキタスサイン「Kタッチナビ」のデザインも、熊本駅前では駅前で使用している地図と同じものを使用し、駅広案内サインにユビキタス器具類を内蔵することでデザインの統一を図りました。

## 道路案内標識

道路案内標識の表示方法等は「道路案内標識の現状と課題 平成18年3月 熊本県道路保全課」に示された基準に基づきつつ、ユニバーサルデザインの観点から他のサインと同一のピクトグラム(絵文字)を多用することとしました。

また、表示板の色は「青」と定められていますが、サインポール形状や色彩はトータルデザインに配慮し駅周辺地域で使用されている照明柱や信号柱と同一のものを使用しました。

【まちなか案内サイン】



【駅前の交番の周辺案内地図】



【ユビキタスサイン「Kタッチナビ」】



【道路案内標識】



# 駅から拡げる

## 駅前から市街地への展開

### 市電のりばサインの展開

熊本駅周辺地域に新しく整備された二本木口と田崎橋の電停では、電停そのものが“電停”としての視認性を高めたデザインとなっています。

また、熊本市交通局の協力により、時刻表掲示板やその他の電停関連のサインは白川口との統一性に配慮したデザインのものも設置されました。

さらに、「路線案内図」については、駅前の市電のりばで検討されたデザインが全ての電停で使用されています。

### 合同庁舎・再開発ビルのサイン

国の熊本地方合同庁舎のサインや駅前再開発ビル(くまもと森都心プラザ)のサインも、それぞれの協力により、サイン本体のデザインや表示面のデザインに共通性のあるサインが採用されました。

### 【電停サインの展開】



▲熊本駅前で検討された「路線図」のデザイン



▲熊本駅前で検討された「路線図」のデザインは各電停で使用されています。

### 【合同庁舎のサイン】



### 【熊本市移動円滑化向上プロジェクトのサイン】



### 【白川記名標識】



### 【新幹線口散策路修景案内サイン】



### 市街地への展開

「まちなか案内サイン」については、駅前から駅周辺地域全体に配置されます。

さらに、熊本城を中心とした市街地に計画的な展開が行われています。

### 移動円滑化向上プロジェクト

熊本市が主体となり、熊本中心市街地の観光施設や公共施設を案内するプロジェクトが展開されました。

このプロジェクトでの案内サインは駅周辺地域で検討された「まちなか案内サイン」に準じて検討されました。

### 新幹線口散策路修景案内サイン

新幹線口(西口)から北岡自然公園に至る散策路には、賑わいを演出する修景案内サインが整備されました。

### 白川記名標識

白川橋橋詰には、国土交通省により、「白川記名標識」が設置されました。

このサインのデザインにおいても、駅周辺の総合的なデザインとの調整が図られました。

# 7 わかりやすく

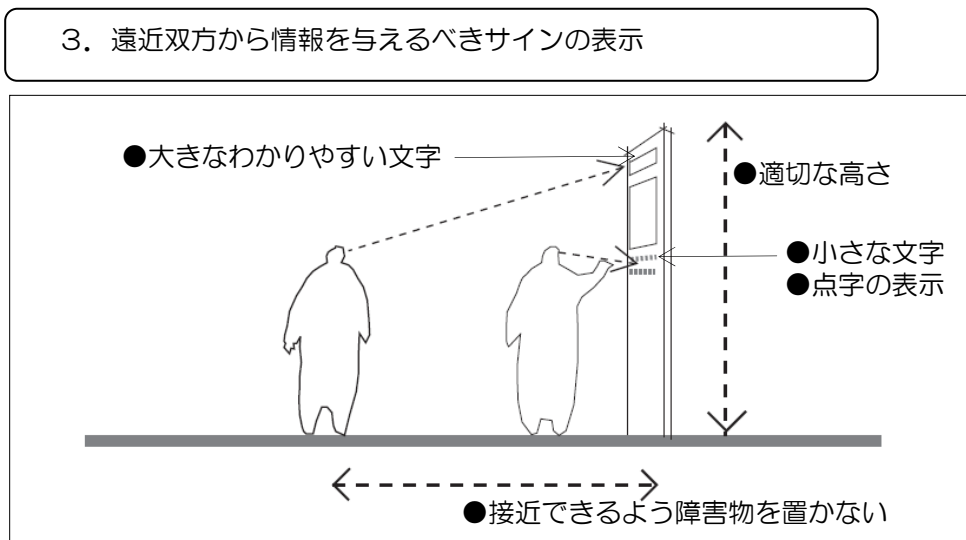
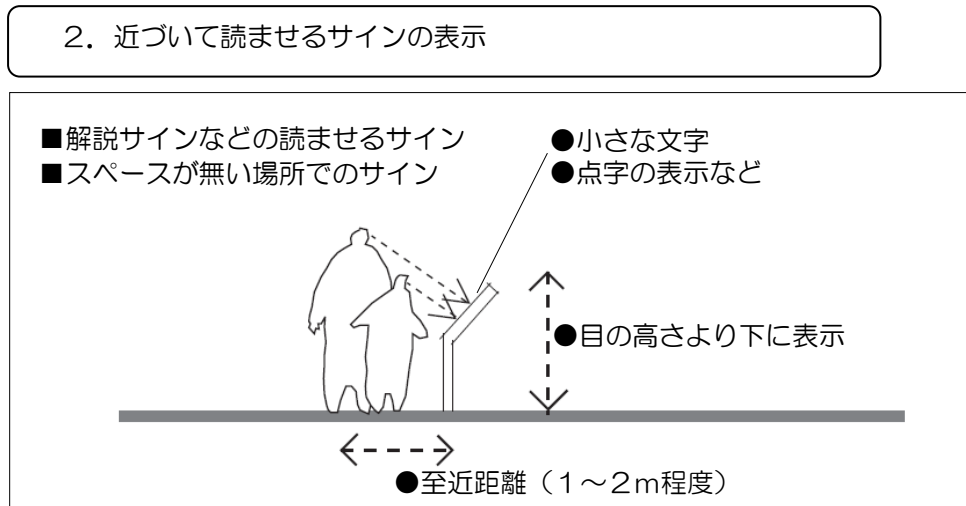
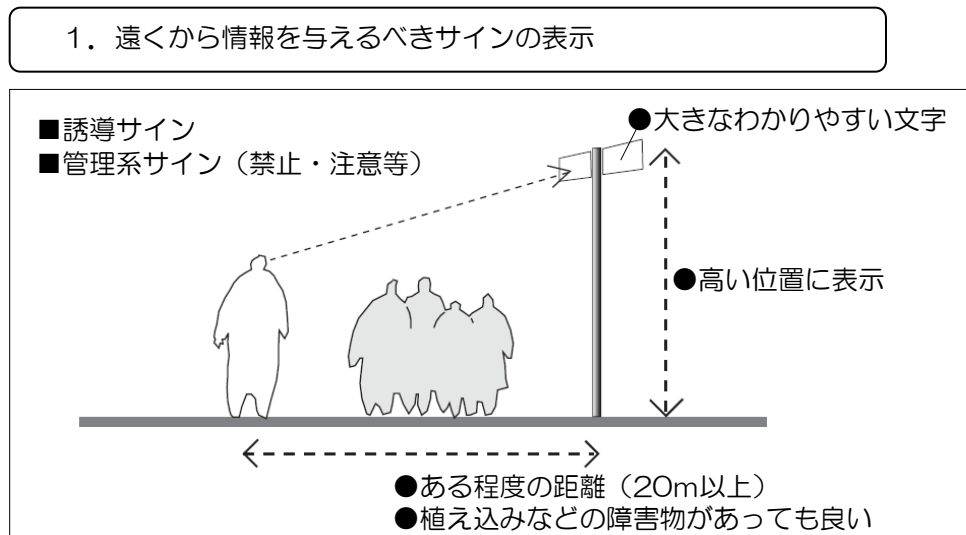
## わかりやすさをつくる共通仕様

### 共通仕様による間違えにくいサイン

熊本駅周辺地域では、多様な主体が別々にサインを設置しても、表示された文字やピクトグラムなどがわかりやすく、読みやすく、間違えにくいものとなるよう、以下の項目に“共通仕様”を設定しました。

1. 書体や文字の大きさ
2. 外国語表記の仕方
3. ピクトグラム
4. 色彩、その他

### 【視認距離と文字の大きさの目安】



### 【「書体」の考え方と共通仕様】

- 「書体」は、『熊本県既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル』に示された「サインでよく使われる書体例」から選定しました。
- 和文の書体は、視認性の高い角ゴシック体から文字の大きさを問わず、読みやすくレイアウトしやすい「新ゴM」を指定書体としました。また、サイン板上部のタイトル文字は、より視認性の高い「新ゴB」としました。
- 英文字・数字書体は、指定和文書体に合い、国際的にも多用されている「Frutiger」を指定書体としました。
- カタカナ、英文の文字間隔は読みやすくなるよう調整することとしました。

#### ■サインでよく使われる“見やすい”書体の例

新ゴM	視覚情報サインガイドライン
平成角ゴ	視覚情報サインガイドライン
タイフランクDB	視覚情報サインガイドライン
Frutiger Bold	0123456789 abc ABC

※出展：熊本県既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル

#### ■指定書体（共通仕様）

対象（部位）	指定書体
和文（サイン上部タイトル文字）	新ゴM
和文（サイン上部タイトル文字以外）	新ゴB
英文	Frutiger
ハングル	Arial Unicode MS
中国語	Hei Regular

### 【「文字の大きさ」の考え方と共通仕様】

- 文字の大きさは『熊本県既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル』に基づき、原則として下表の大きさに設定しました。
- ただし、地図の中の文字は、板面の大きさや地図の見やすさを考慮して、下表の基準より小さな文字を使用しても良いこととしました。

#### ■視認距離と文字の大きさの目安（共通仕様）

距離	ピクトグラムの寸法	和文文字高	英文文字高
中～遠距離（20m以上）	360mm 以上	120mm 以上	90mm 以上
近距離（10m）	240mm 以上	80mm 以上	60mm 以上
近距離（5m）	120mm 以上	40mm 以上	30mm 以上
至近距離（1～2m）	60mm 以上	20mm 以上	15mm 以上

- 和英文の表示方法については、英文は和文の1/2を原則としました。
- ただし、情報量の多い「まちなか案内サイン」で、英文の文字の大きさが和文の1/2では煩雑になる場合は、英文の大きさを、和文の1/2～1/3までの範囲で調整して煩雑にならないよう配慮するようにしました。

#### ■基本的な和英文表示の場合の文字の大きさ ■英文を小さくする場合の文字の大きさ

熊本駅前 Kumamoto Station	A 0.2A 0.5A	合同庁舎 Government Office	A 0.1～0.2A 0.3～0.4A
--------------------------	-------------------	---------------------------	---------------------------

## 【「外国語表記」の考え方と共通仕様】

○外国語表記については、以下のA～Dの4点を基本としました。

- A. 和文・英文の2ヶ国語表記を基本とする
- B. 歓迎サイン・注意書きサイン・観光案内サイン等については、和文・英文に韓国語・中国語を加えた4ヶ国語表記とする
- C. 駅構内及び駅広内など、外国人も多い場所では誘導サインも外国語表記を行う
- D. 外国語表記により、文字が多くなり判読しにくくなる場合は、外国語表記の選択を行う

○なお、地名にはローマ字を併記することとしました。(ローマ字はヘボン式表記法)

## 【「ピクトグラム(図記号)・矢印」の考え方と共通仕様】

○「ピクトグラム」及び「矢印」も『熊本県既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル』に基づき、「JIS規格(JISZ8210)」を原則として使用することとしました。

○ただし、のりかえ案内用に使用する「ピクトグラム」については、JR駅舎からの連続性と整合性に配慮し、JRが使用している「交通エコロジー・モビリティ財団」の委員会が示した「標準案内図記号」を使用することとしました。

### ■ピクトグラム(共通仕様)

対象(部位)	指定書体
乗換案内用サインのピクトグラム	交通エコロジー・モビリティ財団による「標準案内図記号」
上記以外のピクトグラム	JIS規格(JISZ8210)

## 【「色彩」の考え方と共通仕様】

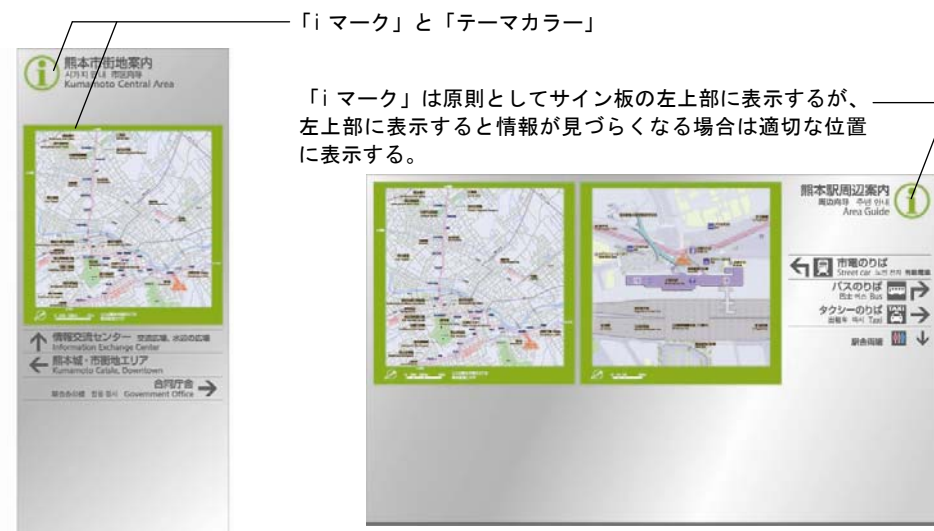
○文字、地図、板面のベースなどの色彩は、原則として『熊本県既存建築物の視覚情報サイン改善マニュアル』に示された“明度差5以上のコントラスト”に配慮した色使いとしました。なお、背景や日光の条件などにより見やすさが変わるため、適切に調整することとしました。

## 【「i(アイ)マーク」と「テーマカラー」の考え方と共通仕様】

○“サイン(案内板・情報板)”であることの視認性を高めるため、「information(情報案内)」の頭文字をデザインした「i(アイ)マーク」と「テーマカラー」を各サイン板に使用することとしました。

○「iマーク」は原則として各サインの左上部に表示することとしました。

○テーマカラーは、熊本駅周辺地域の都市空間デザインガイドのコンセプトである“風土や自然環境への配慮”から“緑”とし、地図の枠として使用するほか、サインの側面にも部分的に表示するなど、同じテーマカラーを使用することで多様な主体が設置しても共通性が感じられるようにしました。



### ■参考：外国語表記例(共通仕様)

市電のりば Tram 노면 전차 有軌電車	バスのりば Bus 버스 巴士	タクシーのりば Taxi 택시 出租车
--------------------------	--------------------	------------------------

### ■参考：熊本駅周辺地域のサインで使用したピクトグラム



### ■参考：熊本駅周辺地域のサインで使用した文字の大きさ(共通仕様)

	対象(部位)	指定の大きさ
地図外	サイン上部タイトル文字	和文：55.0mm / 外国語：27.5mm
	誘導表示文字	和文：42.0mm / 外国語：21.0mm ピクト・矢印：80mm×80mm
	のりば表示文字	和文：60.0mm / 外国語：27.5mm
地図内	現在地表示文字	和文：18.0mm / 外国語：9.0mm
	施設名文字	和文：12.0mm / 外国語：6.0mm
	JR駅名文字	和文：10.0mm / 外国語：5.0mm
	市電電停名文字・町名文字	和文：8.0mm / 外国語：4.0mm
	道路名(通り名)文字	和文：7.0mm



# 8 経緯と体制

## 計画策定の経緯と計画の策定体制

### 計画策定の経緯

熊本駅周辺地域のサイン計画は、駅周辺地域全体の都市空間デザインを検討する「熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議」及びその下部組織の「熊本駅周辺地域都市空間デザインワーキングシステム」で検討されました。

なお、ワーキングシステムでは市民参加による“ワークショップ”を通じた検証や関係機関との調整を行いながら検討を進めました。

### 検討・策定体制

サイン計画の検討は、熊本駅周辺地域全体の都市空間デザインを検討する以下の体制のもとで行われました。

1. 熊本駅周辺地域都市空間デザイン会議
2. 熊本駅周辺地域都市空間デザインワーキングシステム

### 【策定経緯】



### 情報の更新

今後、まちの成長や変化にとまない、サインに表示された情報の適切な更新が必要になります。

情報をひとつでも更新する場合は関係機関の全てのサインの情報を同時に更新する必要があるため、関係機関による適切な情報の管理と協議・調整のための場が必要になります。

### 【策定体制】

